

Let's keep the cat properly

猫の適正飼育について

愛玩動物の適正飼育に大切な3つのキーワード

捨てない

増やさない

見捨てない



2016年度に全国自治体の保健所、動物愛護センター等での猫の引取り頭数は72,624頭、殺処分頭数は45,574頭でした(環境省HPより)。

殺処分される猫の6割は幼猫で、乳飲み子は即日処分されることが多いです。

動物保護団体「NPO法人 猫たちを守る十勝Wishの会」によると、寄せられる相談で多い理由は、「引っ越しするから」「家族が猫アレルギーになった」「粗相をするから」「歳をとったからもういい」「治療費が払えないから」など。猫をいったん飼育したら、最期まで飼い主が責任を持ちましょう。

猫を迎え入れるとき、「捨てない」「増やさない」「見捨てない」を念頭にこの小さな命と向き合っていただきたい...それが私たちの願いです。

猫の不妊去勢手術にご理解ください

最近、「多頭飼育崩壊」という言葉を聞いたことはありませんか?これは猫の繁殖能力の高さを認識せず、不妊去勢していない猫を複数飼い続けた結果、爆発的に数が増えて飼育困難になることをいい、最近社会的な問題となっています。行政や保健所、猫の保護団体への相談数も多く、最終的に殺処分されてしまう猫も少なくありません。

猫は生後6~9ヶ月で初めての発情期を迎え、妊娠して2ヶ月で出産するため、できるだけ早いうちに不妊去勢手術をすることをおすすめします。

不妊去勢により、性格が穏やかになったり、発情期の鳴き声の抑制、オス猫の場合は壁などへのマーキング(尿スプレー)を防いだり、オス特有の尿の臭いもなくなります。「かわいそうだから」「自然にしたほうがよい」と不妊去勢しないことは、不幸な猫をどんどん増やしてしまう結果につながります。

猫の繁殖の特徴

- 生まれて半年で妊娠が可能になる
- 年に1~2回程度発情し交尾する
- 親子兄弟関係なく交尾をする
- 交尾をしたらほぼ100%妊娠する
- 妊娠期間は2ヶ月と短い
- 1回の出産で4~6匹を産む